

東京都農業協同組合中央会

東京都
活動期間：8年

東京農業の魅力を発信し、東京産農産物の消費拡大を通じて取り組む食農教育
『未来への種まき』

“超”都心でやるから意味がある、
将来に亘る東京農業のファン創り

東京の食料自給率は「0%」。農業産出額も日本で最下位です。何でもあるはずの東京ですが、“超”都心には農地がありません。農家もいません。JAもありません。自治体に農業振興部署もありません。地場産農産物もありません。東京の人口は1,400万人、そのうち“超”都心部に住む人口は400万人です。この400万人、そして次世代を担う子どもたちや若者たちに、東京農業の魅力を伝え、農産物を届けたいと考え、最大消費地である東京を管轄する私たちJA東京グループは、将来にわたる東京農業のファンづくり、『未来への種まき』を果たすべき使命として取り組んでいます。



“超”都心へ東京農業を届ける

出向くだけでなく連れてくる、
そして「都市農業の日」の定着へ

食農教育の発展には、栄養士や担当教諭の理解促進が不可欠です。そのためには、単に出向くだけでなく、“超”都心からも現場に連れてくる必要があります。栄養士や教員向けに「畑の見学会」を開催し、現場を実際に見て、触れ、体験してもらいます。また、東京産農産物の給食での使用を推進し、特に11月2日の「都市農業の日」にはその使用を積極的に促進しています。



畑の見学会の様子



東京産食材を使用した給食を配膳する児童

“超”都心の親子に大人気！
東京のプロ農家による出前授業

“超”都心に住む子どもたちにとって、農家や農業に触れる機会はほとんどありません。そんな子どもたちに、東京の農家が野菜の豆知識やクイズを盛り込んだ授業を行い、楽しみながら学んでもらいます。公開授業の日には、子どもたちよりも保護者の方々の方が興味津々に聞いていることもあります。



体育館で大人数の
合同出前授業の様子



教室での出前授業の様子



プロの農家による栽培指導の様子



次世代を担う子どもたちや若者たちに東京農業の魅力を伝えたいと思い、この活動に取り組んで8年が経過しました。ここまで続けてこられたのは、東京の農家の皆さまをはじめ、多くの方々のご協力あつてのことです。今後も、JA東京グループの総力を結集し、『未来への種まき』をさらに発展させていきたいと考えています。

東京都農業協同組合中央会 一同